

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新入間工場新築工事	階数	地上2F
建設地	埼玉県入間市大字狭山台字武蔵野	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	555 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2023年1月6日
敷地面積	14,523 m <sup>2</sup>	作成者	五洋建設(株) 阿部寛子
建築面積	5,981 m <sup>2</sup>	確認日	2023年1月12日
延床面積	10,350 m <sup>2</sup>	確認者	五洋建設(株) 早川聡



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項	
総合	<p>・24時間稼働を念頭に、食品工場としての機能性・メンテナンス性に優れた設計を行う。</p> <p>・騒音や排気等による周辺環境への影響にも十分配慮する。</p> <p>・空地部分は積極的に緑化を行い、温熱環境負荷の向上に配慮している。効率の良い設備機器の導入、再生水の利用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。</p>
Q1 室内環境	<p>評価対象外</p>
Q2 サービス性能	<p>・Q2-1は、評価対象外</p> <p>・階高のゆとりをとることで、天井裏を確保し、配管の更新性の向上に配慮する。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>・空地の積極的な緑化等により、温熱環境の向上に配慮する。</p>
LR1 エネルギー	<p>・エネルギー消費量の特性について傾向把握・分析を行い、その妥当性を確認しながらエネルギー使用に配慮する。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>・再利用可能なリサイクル材の採用により、非再生資源の使用量削減に配慮する。</p> <p>・節水、雑排水を再利用水として再利用することにより、環境に配慮する。</p>
LR3 敷地外環境	<p>・駐車場・駐輪場、荷捌き用車両の駐車スペースの確保や出入りのしやすい外構計画により、交通渋滞緩和に配慮する。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)新入間工場新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
	1 開口部遮音性能							
	2 界壁遮音性能							
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)							
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
	1 室温							
	2 外皮性能							
	3 ゾーン別制御性							
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
	1 昼光率							
	2 方位別開口					3.0		
	3 昼光利用設備							
3.2 グレア対策								
	1 昼光制御							
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
	1 化学汚染物質							
4.2 換気								
	1 換気量							
	2 自然換気性能							
	3 取り入れ外気への配慮							
4.3 運用管理								
	1 CO <sub>2</sub> の監視							
	2 喫煙の制御							
<b>Q2 サービス性能</b>					0.43			<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
	1 広さ・収納性							
	2 高度情報通信設備対応							
	3 バリアフリー計画							
1.2 心理性・快適性								
	1 広さ感・景観							
	2 リフレッシュスペース							
	3 内装計画							
1.3 維持管理								
	1 維持管理に配慮した設計							
	2 維持管理用機能の確保							
<b>2 耐用性・信頼性</b>				3.1	0.50			3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50			
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80			
	2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30			
	1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20			
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	21年以上～30年未満		4.0	0.20			
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10			
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10			
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20			
	6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20			
2.4 信頼性				3.0	0.20			
	1 空調・換気設備			3.0	0.20			
	2 給排水・衛生設備			3.0	0.20			
	3 電気設備			3.0	0.20			
	4 機械・配管支持方法			3.0	0.20			
	5 通信・情報設備			3.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.1</b>	0.50	-	-	<b>4.1</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高のゆとり3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1以下	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>4.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	設備階の設置等により仕上げ材を痛めることなく更新・修繕可能	5.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材、仕上げ材を痛めることなく、修繕、更新できる	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラックの採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラックの採用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	天井裏が十分確保でき、修繕・更新時も建物機能を維持できる	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.57</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>1.0</b>	0.20	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.85	<b>2.7</b>	0.50	-	-	<b>2.7</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.5</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	主要な用途別エネルギー消費の内訳の傾向把握・分析可能	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
1.1 節水		節水水栓に加えて、省水型機器を採用している。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.3</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	再生水を採用している。	4.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.3</b>	0.60	-	-	<b>3.3</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		磁器質タイル、吸音材料、ビニル床材	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出量による	<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車場を確保している。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満たしている。	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)新入間工場新築工事	BEE	1.1	BEEランク	★★★
------	---------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.2	+	3.0	=	6.2	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.2
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.2
<配慮した内容を記述>			
・ライフサイクルCO2排出率は93%で、一般的な建物と同等である。 ・効率の良い設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
・空地の積極的な緑化等により、温熱環境の向上に配慮する。 ・隣棟間隔をとり、夏期の卓越風向に対する建物の見付け面積を小さく抑えることで、風の通りを遮らないように配慮する。			

: 入力欄